

2024 年度 4 月入学
金沢大学大学院法学研究科(修士課程)
第1期募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	法学・政治学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	国際法		

問題1と2の両方に答えなさい。

問題1

国が人権に関する条約を批准する際に留保を付すことの問題点を5文以内で説明しなさい。

参考：条約法に関するウィーン条約第2条1項(d)「『留保』とは、国が、条約の特定の規定の自国への適用上その法的効果を排除し又は変更することを意図して、条約への署名、条約の批准、受諾若しくは承認または条約への加入の際に単独に行う声明(用いられる文言及び名称のいかんを問わない。)をいう。」

問題2

以下の事例を読み、B国がB国軍による武力行使を集団的自衛権として正当化しうるか、その条件等と妥当性について論じなさい。

(注意：出題者からの追加の事実設定は行わないので、以下の事実以外の事項について受験者が条件に挙げる場合には、「仮に～」として仮定を示して論じること。)

【事例】A国には、隣国B国の国民と同じ民族であるbx民族が多く居住するY州がある。B国は、A国の弱体化を狙い、bx民族の武装勢力に対して資金と軍事物資と軍事訓練を提供し、bx民族の独立運動を支援した。Y州でbx民族による反乱が成功していない状況で、B国はY州を新たに「Y国」として国家承認した後、Y国から保護の依頼があったと主張してB国はB国軍をA国に派遣し、Y州内外でA国軍を攻撃するとともに、Y州と離れたA国首都に対して大規模なミサイル攻撃を行った。A国は、「Y州はA国の領土の一部である。今回のB国による行為はA国への内政干渉であり、侵略である。」との声明を公表した。

以上